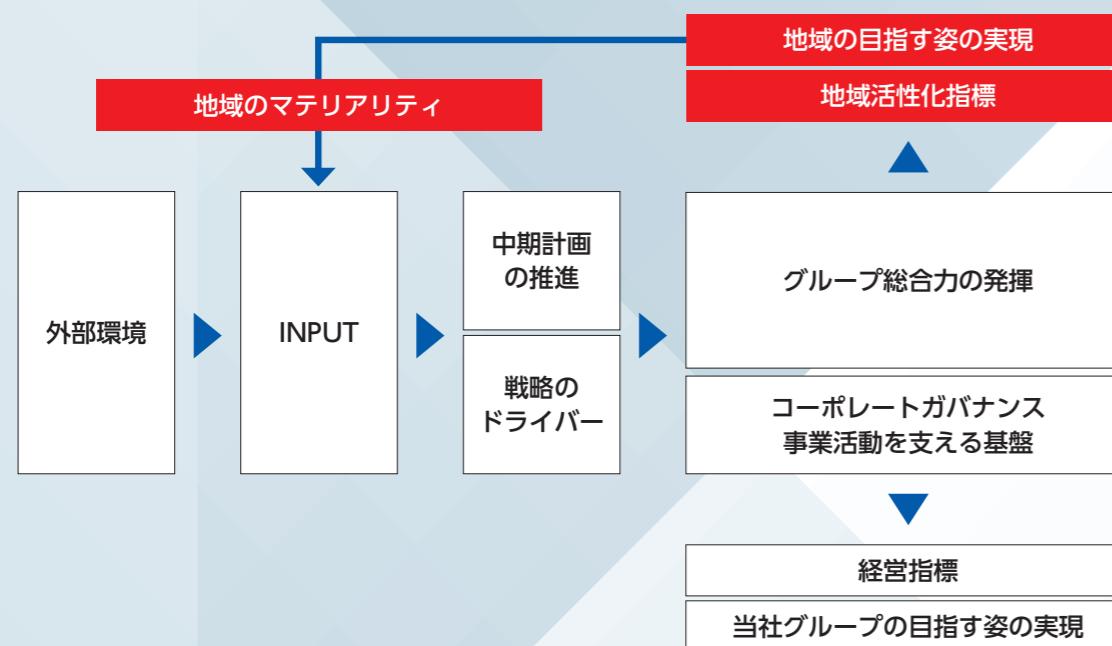


# 私たちはなぜ存在し、どこへ向かうのか？

このセクションでご説明する価値創造ストーリー内の位置づけ



このセクションでお伝えしたいこと

- | 当社のパーサスと10年後の目指す姿
- | 当社のマテリアリティと特定プロセス

## Contents

パーサス	29
実現したい未来(10年後の目指す姿)	30
マテリアリティ	31-32
特集 未来をひろげる取組み —未来創造タスクフォース・未来創造推進ワーキンググループ	33-34

## 実現したい未来（10年後の目指す姿）

<地域総合サービスグループ>として、地域活性化につながる取組みを、従来以上に強化するため、当社グループが経営基盤を置く地域の「10年後の求められる地域像」を考えるとともに、「10年後の当社グループの目指す姿」を定めました。

## 10年後の求められる地域像

「活力ある地域」 = 県内総生産（GDP）が維持・拡大している地域



## 10年後の当社グループの目指す姿

「活力ある地域」の実現に貢献し、地域において圧倒的な存在感を發揮

企業価値の向上  
(ROE・PBRの持続的向上)

**PURPOSE**  
当社グループの「存在意義」

# 幅広いサービスを通じて、地域社会と共に、 「未来」を、ひろげる。」

当社グループは、<地域総合サービスグループ>として、地域社会・お客さまのあらゆる課題解決に向けた取組みを進めておりますが、当社グループのビジネスの拠りどころ・目的、当社グループ・従事者の回帰すべき原点を明確化させるため、新たにパー・パスを制定しました。

## パー・パス制定の想い・考え方

幅広い  
サービスを  
通じて

地域総合サービス業としての、非金融を含めた当社グループ機能に加え、行政等の地域のサービス機能を活用して、各ステークホルダーに価値をもたらす

ひろぎんHD

<地域総合サービスグループ>として、ステークホルダーの好循環の輪を結ぶことにより、各ステークホルダーの未来の可能性を広げる

地域社会と  
共に

未来を、  
ひろげる。

「地域の成長なくして、当社グループの成長もない」ことを踏まえ、地域社会の活性化により、当社グループの事業機会を創出すること等を通じて、共に発展する

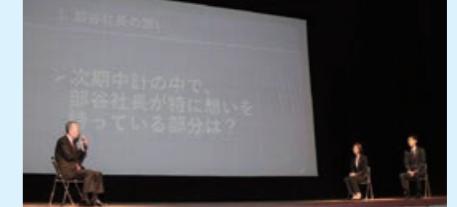
地域の未来、お客さまの未来、株主の未来、そして組織（当社グループ）の未来の可能性を広げる

## TOPICS

## インフォメーションセッション、タウンホールミーティングを開催

「パー・パス」「中期計画2024」の策定に併せ、2024年3月にインフォメーションセッションを開催し、広島・福山の2会場あわせて、約1,200名の従事者が参加しました。当日は当社社長から従事者に向けて、熱い想いが語られ、加えて、未来創造推進ワーキンググループのメンバーが中期計画を受けて、感じたこと・思ったこと、個人として実践したいことを発表しました。

また、グループ会社、銀行の地区・営業店単位での、タウンホールミーティングを順次開催し、「パー・パス」「中期計画2024」の社内浸透（“自分事化”）を進めています。



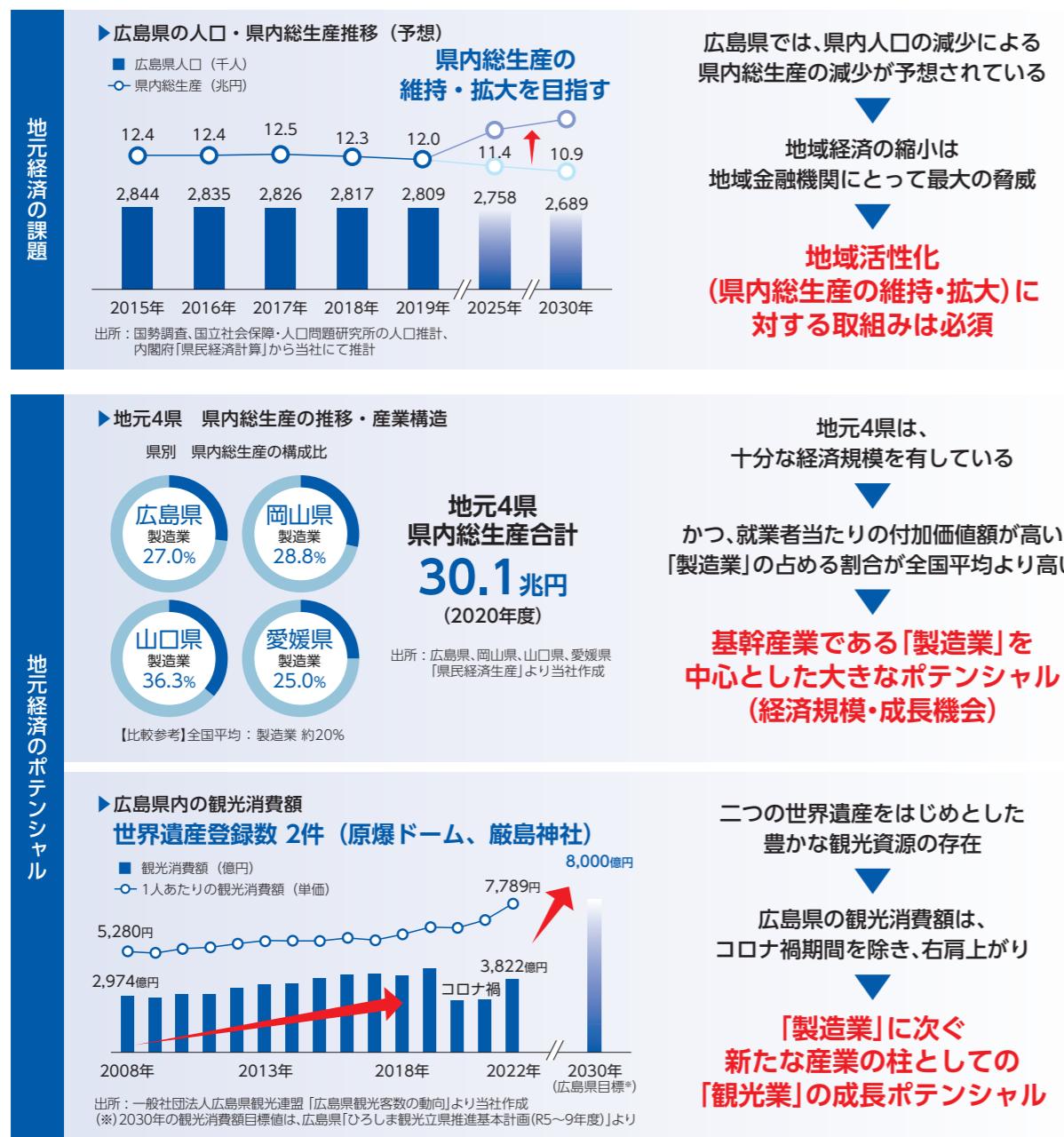
# マテリアリティ

当社グループでは、活力ある地域の実現という「10年後の求められる地域像」(To-Be) の実現に向け、取組むべき事項を整理するにあたり、マテリアリティ（優先取組課題）を特定しました。

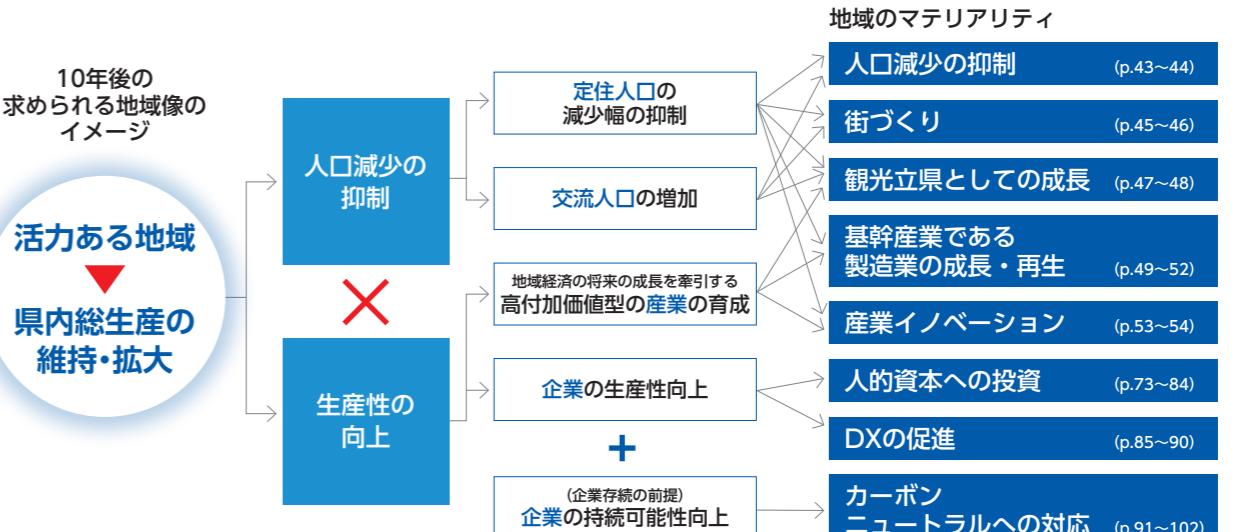
当社グループは、<地域総合サービスグループ>として、徹底した地域密着型経営のスタンスを取り、地元地域と共存共栄の関係にあるため、「地域の経済規模が維持できないと、当社グループのビジネスは縮小均衡に入らざるを得ない」という現状(As-Is)への危機感を有しており、新たに設定した8つのマテリアリティには、当社グループの持続的成長のために、地域活性化（県内総生産の維持・拡大）に対する取組みは必須であるという当社グループの覚悟と決意が込められています。

県内総生産の維持・拡大に向けて、当社グループが主体的・直接的に「人口」と「生産性」の増加に取組むことを通じて、社会課題の解決（インパクト創出）と当社グループの持続的成長（企業価値向上）を図ってまいります。

## マテリアリティ特定の前提（地域経済の状況）



## 特定したマテリアリティ



## マテリアリティ特定のステップ



# 未来をひろげる取組み

－未来創造タスクフォース・未来創造推進ワーキンググループ－



幅広い世代の職員に「自らの意見で地域や当社グループの未来を変えていく」というチャレンジ機会を作り出すことで、グループ従事者が当事者意識と貢献意欲を持って、地域・当社グループの未来創造に向けてチャレンジする<地域総合サービスグループ>としての企業文化の醸成を図っています



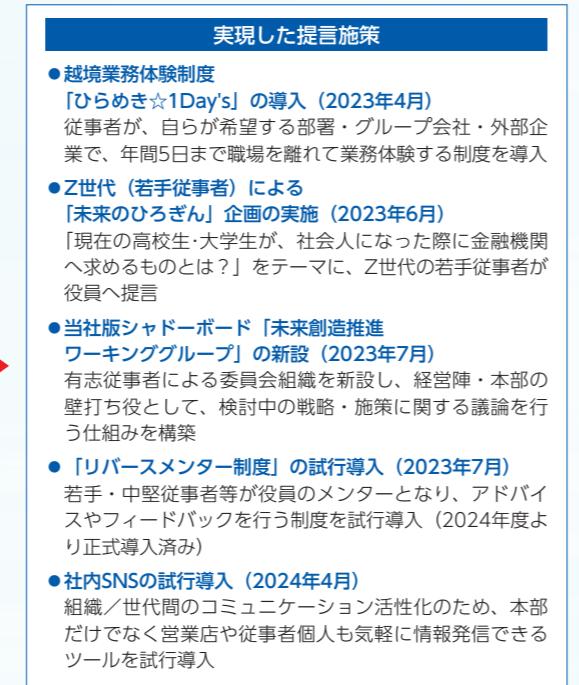
## 次世代を担う若手従事者が「10年後の目指す姿」を提言！

2022年10月、「中期計画2024」の策定にあたって、次世代を担う若手従事者の意見を経営に取り入れるための取組みの一環として、有志の若手従事者16名（主に20代）による「未来創造タスクフォース」を結成しました。

2023年3月、「未来創造タスクフォース」は、半年間の討議活動の成果として、「地域・当社グループの目指したい／目指すべき10年後の未来像」について取締役会メンバー（社外役員を含む）へ直接提言（プレゼンテーション）を実施しました。

2023年4月、取締役会は、「未来創造タスクフォース」提言への対応方針について議論を行い、10年後の目指す姿や「中期計画2024」にて重視するポイント等の検討方向性を整理しました。

また、「未来創造タスクフォース」から提案を受けた様々な個別施策についても、取締役会での議論を踏まえた社内検討がなされ、その後、続々と形になっていきました。



## 当社版シャドーボード始動！幅広い世代の従事者が中期計画策定に関与

2023年7月、「未来創造タスクフォース」の提言を受けて、「未来創造推進ワーキンググループ」を新設しました。

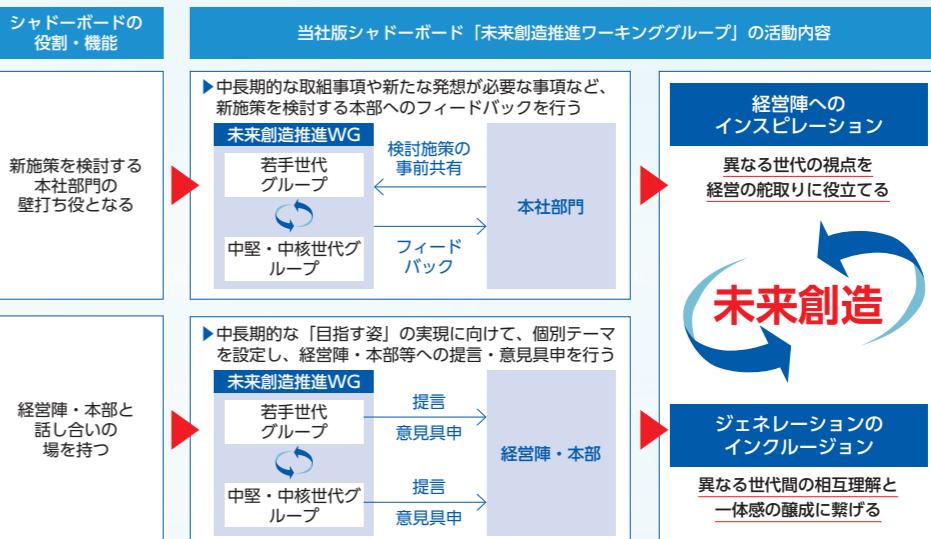
「未来創造推進ワーキンググループ」は、公募選抜された幅広い世代の従事者12名により構成され、経営陣・本部の「壁打ち役」として、検討中の戦略・施策等について定期的な話し合いの場を持ち、現場視点・従事者視点での提言・意見具申等を行うなど、シャドーボード（影の取締役会）としての役割を担う委員会組織です。

2023年度は、新中期計画の各戦略テーマが主な討議テーマとして扱われました。「この内容が明日通達で出たとしたら、どう受け止める？」「この課題に対して、どんな打ち手を打っていくべき？」「従事者が一体となって取組むには？」などの点について活発な意見が飛び交い、時に本部にとっては耳に痛い指摘・意見もなされるなど、従事者視点・現場視点の率直なアドバイス／フィードバックがなされました。

2024年1月、「未来創造推進ワーキンググループ」は、討議活動の集大成として、経営陣に対する提言の場を持ち、新しい「パーパス」・「中期計画2024」の浸透の在り方についてディスカッションを行いました。

2024年3月、上記提言を踏まえて、「パーパス」・「中期計画2024」の“自分事化”に向けたインフォメーションセッションが開催され、社長とともに、未来創造推進ワーキンググループメンバーも登壇・プレゼンし、社長とのパネルディスカッションにも臨むなど、経営陣と現場の「橋渡し役」としての役割を果たしました。

2024年度以降も、「未来創造推進ワーキンググループ」は、中期計画の「策定・浸透」から「実践」へと主眼を移すなかで、年度ごとにメンバーを公募選抜のうえ、活動の輪を広げていく方針です。



## 未来創造タスクフォースの輪を広げたい

私は、「未来を担う子どもたちが住み続けたい、Uターンしたいと思える地域づくりに貢献したい」、「いきいきと働き続ける女性のロールモデルになるための糧にしたい」という想いから「未来創造タスクフォース」に参加しました。

「未来創造タスクフォース」では、ひろぎんグループの若手社員16名が集まり、半年間かけて地域・当社グループの10年後の未来像について討議し、経営陣への提言にチャレンジしました。

私たちの提言のキーワードは、（越境体験）です。今回のタスクフォースでは、普段とは異なる場所で、異なる人と、一緒になって新しいものを作り上げていきました。こうした新しい出会いや経験によって、価値観や視野が広がったと感じますし、会社や地域の未来をとことん考え抜いたことで、会社と地域に対する愛着心は何倍にも大きくなりました。

タスクフォースの活動は終わりましたが、私たちが主となり、会社や地域の未来をしっかり考え続け、

広島銀行  
五日市八幡支店  
(現・営業企画部)  
副島 すみれ

チャレンジし続けなければ感じています。

そのためにも、このタスクフォースのような場を、第2期・第3期と輪を広げていき、私たちひろぎんグループの従事者がもっと当事者意識を持って、「自らの意見で地域や会社の未来を変えていく」ことにチャレンジできるような会社にしてきたいです。

